



## 猛暑と動物たち

地球温暖化？北国、秋田でもたびたび猛暑日を記録した夏だった。恒温（内温）性のほ乳類は、寒さ対策で体内で熱を産生、体毛で保温する性質だから基本的に暑すぎは苦手だ。動物にとっても大変な夏だった。大森山の動物を観察。

ニホンザル、日陰で寝そべり猛暑をそれほど苦にはしていようだ。体温が37～38℃と高い分、暑さの限界温度が高いのか？

オオカミ、汗腺が未発達、毛も厚く、日陰で休み舌を出しハアハアさせ、よだれを流しながらの呼吸でせつせと熱放出に余念がない。

トラやライオンも日陰で寝そべり休息、無駄な動きをせず体温を上げない戦略で賢い。トラは体を水に入れ冷却する術を持つ。さらに賢い。

同じトゲを持つヤマアラシの仲間、北方のカナダヤマアラシはトゲが最少限で細く柔らかい毛が密生するので暑さは大敵、飼育員の氷枕で救われる。

アフリカ原産のタテガミヤマアラシはまばらなトゲと粗い毛で放熱しやすいが、やはり日陰から出てこない。

北方のトナカイは夏の暑さはオオカミ同様で、へろへろ吐息だ。一方、熱帯産の小型鹿キョンは毛が短く粗く熱を放散しやすく、日陰で涼しそう。

アフリカゾウは進化の過程で熱効率をあげ生き抜いてきた動物、熱帯の暑さ対応のためか体表には毛がほとんどないが、飼育員がくれるホース水にご満悦。ちなみに大昔、氷河期に生きていたマンモスは長い毛を身にまとっていた。現世では生息できない動物だろう。

動物はゆつくりした環境変化の中、暑さに耐える能力を身につけ生き抜いてきたが、急激な地球温暖化現象には閉口だ。人はエアコンで難を逃れられるが、自然の動物はそうはいかない。さらに温暖化は動物の餌となる植物環境にも影響を及ぼすことになる。目の前の温度変化は単なる暑さだけではなく、真の生き残り問題にもなりつつある。